



ほっかいどう



農村で楽しもう

林美香子著

農村と都市の共生「農都共生」を唱え、農業再生や地域活性化に取り組む著者が、実践事例や関係者へのインタビューをまとめた。これまで「農村へ出かけよう」(寿郎社、2009年)「農業・農村で幸せになろうよ」(安曇出版、14年)などで、その活動や研



安曇出版 1728円

究成果を発表してきた。しかし本書では「多くの人に、日本各地の美しい農村に出かけてもらいたい」との思いから、専門的な話題よりも、成功例を一般向けに分かりやすく説明。農都共生を理解するための「入門書」ともなっている。

田植えや稲刈りなどの農業体験やオーベルジュ(宿泊できるレストラン)の開店、地元産小麦を使ったパンの販売―都会の人を農村に呼び込む取り組みとして、六つの成功例を挙げる。道内では、高橋牧場・ミルク工房(後志管内ニセコ町)、レストラン・マッカリーナ(同真狩村)、満寿屋商店(帯広市)、伊藤牧場(根室市)の4事例。このうち酪農体験やフットパス(散策路)整備、カフェ開設などを手掛けた

「農都共生」の楽しさつづる入門書

伊藤牧場の伊藤泰通さんは「どうすれば消費者に本当の農業の姿を伝えられるかを意識して仕事をした」と話す。

また、グリーンツーリズム(農山漁村滞在型余暇活動)の例として、愛媛県の宿泊施設「ファーム・インRAM古久里来」の経営者夫婦は「五右衛門風呂に入ったり、地域文化を知るのも立派な体験。(都会から来る人との)交流で私たちも育てられる」と語る。

農都共生について著者も「農村側には生きがいや副収入、都市側には楽しみや心の豊かさという効果がある」と強調する。

いずれの事例も読み進むにつれ、「実際に行ってみたい」と思わせるエピソードがつつられる。楽しそうなどころには人が集まり、活気がでる。「農村で楽しもう」の取り組みが、地域活性化の一つの方策となり得ることが分かる一冊だ。

(文化部・久才秀樹)